



ABILITY

ABILITY Pro 徹底攻略！

その9 ギターの演奏ミスをビートエディタで簡単に修正！

例えば、トラックの編集機能を使って、複数のテイクの中からうまく弾けた部分をつないで実力以上の演奏に仕上げるのはDAWの常套手段の1つです。そこに、ABILITY Pro Ver1.5から搭載された「ビートエディタ」を使うと、トラックの演奏クオリティをさらに向上させることが可能となります。具体的には、発音タイミングの修正やミスした部分の差し替えが、マウス操作で簡単に実行できるのです。それでは、「ビートエディタ」を利用したギタートラックのブラッシュアップ・テクニックを紹介しましょう。(文：平沢栄司)

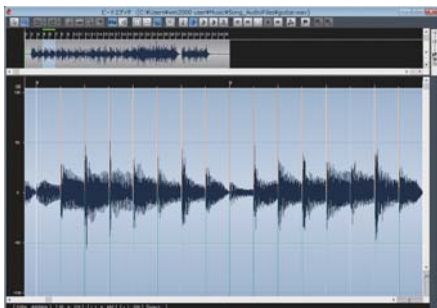
演奏の修正が簡単な「ビートエディタ」を活用しよう

「ビートエディタ」は、タイムストレッチを中心とした、高度なオーディオ編集を可能にする画面です。トラックのオーディオデータの上で、右クリックして開くメニューから「ビートエディタで開く」を選ぶことで開きます。

技1 パッキングやリードのリズムのヨレを修正する

まずは、使う機会が一番多いと思われる演奏タイミング(リズム)の修正方法です。

レコーディングしたギターをビートエディタで開くと、ピッキングしたタイミング(波形の立ち上がり)を自動的に検出して「アタックライン」と呼ぶラインで波形がスライスされます。つまり、エディタ上では1音ずつバラバラの波形に切り分けられた状態となるわけです。そして、リズムがヨレている部分を表示したら、ツッコミ気味の音はアタックラインの上半分(オレンジ色)にカーソルを合わせて後ろ方向に、逆にモタっているところは前方向にドラッグします。すると、自動的にアタックライン前後の波形がタイム・ストレッチされて演奏タイミングが修正できます(画面1)。



画面1 8分刻みのギターのカットिंगが検出されたビートエディタの画面。アタックラインの上半分をドラッグすると前後の波形がストレッチされてタイミングの調整ができる

その際、タイミングの目安となるグリッド線を表示したり、グリッド線にアタックラインをスナップさせて、正確なタイミングに揃えやすくする機能も用意されています。また、作業する時は、横軸の拡大/縮小スライダーを使って、時間軸方向を広げておくとも調整しやすいのでお勧めです。

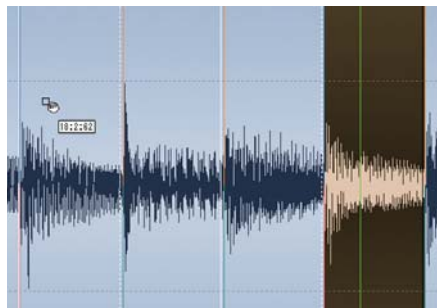
修正の要「アタックライン」の追加と削除の方法を知っておこう

例えば、歪み系のバックিংやコンプが効いているリードなど、音量のメリハリが小さいギター・サウンドの場合、立ち上がりの自動検出がうまくいかないことがあります。

そんな時は、自分でアタックラインを編集しましょう。検出されなかったところには追加、不要なところに挿入されたものは削除していきます。追加する場合は、その場所をクリックしてカーソルを合わせてから、右クリック・メニューから「アタックラインの追加」を実行します。削除する場合は、ライン手前のブロックをダブルクリックして選択した後、その次のブロックをSHIFTキーを押しながらクリックして選択した後、右クリック・メニューから「アタックラインの削除」を実行しましょう。なお、選択されている範囲の先端と終端を残して範囲内にアタックラインを削除するので、SHIFTキー+クリックで選択するブロックを増やせば広範囲にわたって一気に削除することもできます。

技2 失敗したところを正しい演奏のサウンドで差し替える

演奏中の1音だけミスしている時、同じ音がその前後にあるならオーディオデータを流用すれば録り直さなくても修正することができます。ビートエディタの上ではアタックラインですでに1音単位のブロックに分割されているので、ブロックをドラッグ&ドロップするだけで移動やコピー、差し替えが簡単に



画面2 ブロックのコピーや移動は、ドラッグ&ドロップで実行できる。ブロックの先端は、アタックラインの位置にスナップされるので操作も簡単だ

行えます。

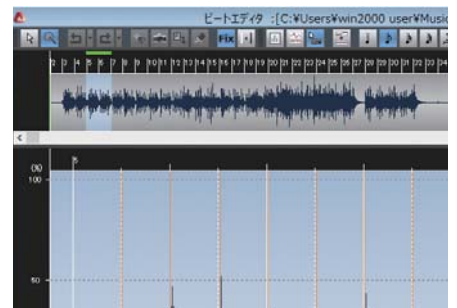
まずは、各ブロックを選択しつつ再生して(そのブロックだけが聴ける)ミスしたところと同じ1音となるブロックを見つけましょう。そして、見つけた正しい演奏のブロックを、Ctrlキーを押しながらドラッグすればコピー、ALTキーを押しながらドラッグすれば移動する形で、ミスしたブロックのアタックラインのタイミングに合わせて上書きされます(画面2)。ウェーブエディタを使ったり、トラック上のオーディオ・データを編集するよりもはるかに簡単ですね。

ミスタッチやノイズなど不要音のブロックを消去する

ミスタッチやノイズなど、不要なものアタックラインの自動検出でブロック化されています。先ほどのブロックの試聴方法で再生してみて、不要なブロックがあれば選択した状態からDELキーを押しましょう(画面3)。すると、その区間が消去されます(無音状態)。演奏の合間の休符に入ってしまったノイズなどは、この方法で消去していくと良いでしょう。

スライスされた波形の順番を入れ換えてフレーズを作り変える

先ほどは、ミスしたブロックに正しいブロックを上書きコピーしましたが、ALTキーを押さずにドラッグ&ドロップするとブロックが移動します。その際、移動先にあったブロック以降は自動的に後ろにずれるので、例えば、同じ小節の中のブロックをドラッグ&ドロップすることで音符単位の演奏順を入れ替えて新しいフレーズに作り変えることも簡単に実行できます。演奏のブラッシュアップとは少々方向性は違いますが、応用例として覚えておくときっと役立つ時があると思います。



画面3 ブロックを選択してDELキーを押すと、その区間を無音にすることができる。ノイズやミストーンを消去したいときに使ってみよう